

|| 企業調査レポート ||

## AIAI グループ

6557 東証グロース市場

[企業情報はこちら >>>](#)

2023年7月10日(月)

執筆：客員アナリスト

**水田雅展**

FISCO Ltd. Analyst **Masanobu Mizuta**



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

## 目次

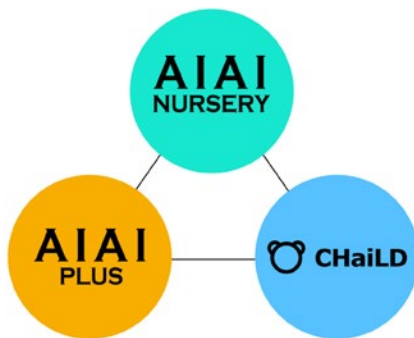
■ 要約	01
1. 認可保育園 AIAI NURSERY と多機能型施設 AIAI PLUS が主力	01
2. 2023 年 3 月期は AIAI NURSERY の収益化で初の営業黒字	02
3. 2024 年 3 月期も AIAI NURSERY の収益拡大で大幅営業増益予想	02
4. 新中期経営計画「AIAI グループ中期経営計画 2023 ～ 2025」	02
5. 新たなビジネスモデル構築も注目点	03
■ 会社概要	04
1. 会社概要	04
2. 沿革	04
■ 事業概要	06
1. 事業概要	06
2. 特色ある幼児教育プログラムが特徴、千葉県において圧倒的シェア	07
3. 収益特性	08
4. リスク要因と対策・課題	10
■ 業績動向	10
1. 2023 年 3 月期連結業績の概要	10
2. 事業別の状況	12
3. 財務の状況	12
■ 今後の見通し	13
● 2024 年 3 月期連結業績予想の概要	13
■ 成長戦略	14
1. 事業環境の変化	14
2. 新中期経営計画「AIAI グループ中期経営計画 2023 ～ 2025」	15
3. 株主還元策	17
4. ESG/SDGs への取り組み	17
5. アナリストの注目点	18

## ■ 要約

### 保育・療育・教育を一体的に提供する「AIAI 三育圏」

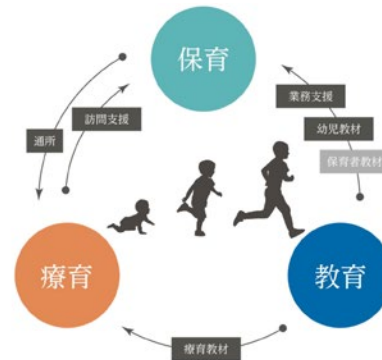
AIAI グループ <6557> (旧 global bridge HOLDINGS が 2022 年 1 月 1 日付で商号変更) は、経営理念に「夢に向かって成長しつづけよう」、グループミッションに「人口問題の解決」を掲げ、未就学期の子どもに関する事業として東京・千葉・大阪を中心に「保育・療育・教育」を一体的に提供し、3つの事業のシナジー効果を最大化させる「AIAI 三育圏」を展開している。

AIAI グループの 3 つの子ども関連事業



出所：「事業計画及び成長可能性に関する事項」より掲載

AIAI 三育圏



#### 1. 認可保育園 AIAI NURSERY と多機能型施設 AIAI PLUS が主力

認可保育園 AIAI NURSERY、多機能型施設（児童発達支援及び保育所等訪問支援事業所）AIAI PLUS を主力に、サービス付高齢者向け住宅 AIAI MAISON や住宅型有料老人ホーム AIAI HOUSE も展開している。千葉県・東京都・大阪市及び神奈川県に展開し、2023 年 3 月期末時点の施設数は AIAI NURSERY が 84 施設、AIAI PLUS が 17 施設、AIAI MAISON/AIAI HOUSE が 2 施設、AIAI FACTORY が 1 施設、合計が 104 施設となった。認可保育園経営数は業界 6 位規模である。特徴・強みとしては、特色のある独自の教育プログラムが高い評価を得ていることなどがあり、この結果、特に千葉県において圧倒的なシェアを誇っている。認可保育園 AIAI NURSERY の収益特性として、新規施設開設時は費用先行や低在籍数・低在籍率で赤字だが、開設後 3～4 年目以降になると在籍数増加・在籍率上昇によって収益化（黒字化）する。なお、2023 年 3 月期まで事業区分をチャイルドケア事業、ライフケア事業、テック事業としていたが、2024 年 3 月期より単一セグメントに変更する。

## 要約

## 2. 2023 年 3 月期は AIAI NURSERY の収益化で初の営業黒字

2023 年 3 月期の連結業績は売上高が 10,822 百万円、営業利益が 80 百万円、経常利益が 413 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が 506 百万円の損失だった。連結ベースで初めて営業利益が黒字化した。2022 年 3 月期が決算期変更に伴う経過措置として 15 ヶ月決算だったため比較はできないが、利益面では、AIAI NURSERY の開業後 3～4 年経過して収益化した施設数が増加したことに加えて、職員配置適正化など施設運営の効率化、AIAI PLUS の稼働率上昇、オフィス組織における販管費見直しの効果なども寄与した。開設施設数の差異により営業外収益での補助金収入は減少したが、営業利益は大幅に増加した。なお当期は減損損失 549 百万円を計上したため最終赤字だった。四半期別の推移を見ると、売上面は新規施設開設と期中の充足率・稼働率上昇によって増収基調である。営業利益は、新規施設開設時にあたる第 1 四半期が開園関連費用先行で赤字だが、第 2 四半期以降は黒字基調となっている。

## 3. 2024 年 3 月期も AIAI NURSERY の収益拡大で大幅営業増益予想

2024 年 3 月期の連結業績予想は、売上高が前期比 4.4% 増の 11,300 百万円、営業利益が同 147.8% 増の 200 百万円、経常利益が同 15.4% 減の 350 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が 200 百万円（2023 年 3 月期は 506 百万円の損失）としている。特に営業利益は AIAI NURSERY の収益拡大により大幅増益の予想としている。新規施設は AIAI NURSERY が 5 施設（うち 1 施設は移転して定員拡大）、AIAI PLUS が 3 施設（いずれも 2024 年 3 月期開設予定）、合計が 8 施設の計画としている。主力の AIAI NURSERY を中心に、新規開設や既存施設の園児数充足によって売上高及び利益規模の拡大を図るとともに、人員の最適配置などの取り組みも継続的に推進する方針だ。

## 4. 新中期経営計画「AIAI グループ中期経営計画 2023～2025」

待機児童問題が解消に向かう一方で発達に障害をかかえる子どもの増加という事業環境の変化や、同社の AIAI NURSERY が利益化フェーズ入り連結営業利益が 2023 年 3 月期に初めて黒字化したことなどを踏まえて、同社は従来の中期経営計画を見直し、2023 年 5 月に新たな「AIAI グループ中期経営計画 2023～2025」を策定した。テック分野の位置付け見直し、訪問支援サービスや幼児教育プログラムなどの新たなビジネスモデル構築なども織り込んだ。目標数値としては、2026 年 3 月期の売上高 120 億円～130 億円、営業利益 3 億円～5 億円、3 年累計投資予定額 6.8 億円などを掲げた。AIAI NURSERY については、自前出店のほか M&A も視野に入れて、規模の拡大と利益の安定成長を推進する。AIAI PLUS については、認可保育園に次ぐ成長の柱として育成を継続するが、出店計画は見直して、サービス品質のさらなる向上と収益の最大化を図るべく作業療法士など有資格者の獲得・育成に注力するとともに、人材獲得・育成ペースに合わせた出店計画を新たに策定した。同時に、専門家が保育施設を訪問してプログラムを提供する保育所等訪問支援を軸に、新たなビジネスモデルを構築して収益拡大を図る。

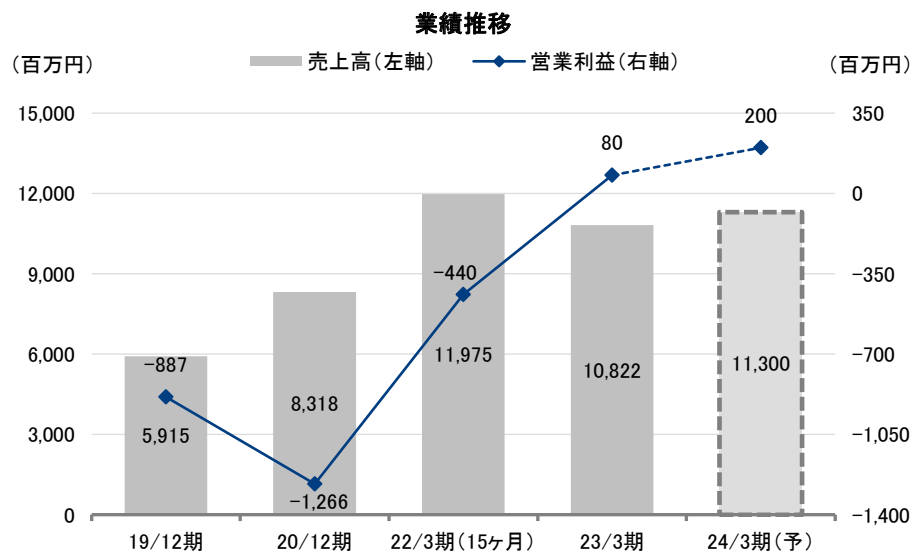
要約

### 5. 新たなビジネスモデル構築も注目点

同社は 2023 年 3 月期に初めて営業利益が黒字化した。AIAI NURSERY において開設から 3～4 年経過した既存施設の割合が上昇し、安定収益フェーズに移行した形だ。保育市場は今後競争激化が予想されるが、同社は AIAI PLUS との連携によるインクルーシブな保育の提供や質の高い教育プログラムや千葉県を中心とするドミナント戦略によって高い競争力を維持しながら、収益が安定的に拡大するだろうと弊社では考えている。加えて、発達に障害をかかえる子どもの増加への対応が今後の国の重要政策となる可能性があり、同社が視野に入れている保育所等訪問支援を軸とする新たなビジネスモデルの構築についても注目したいと弊社では考えている。

#### Key Points

- ・グループミッションに掲げる「人口問題を解決する」に寄与する事業を展開
- ・「保育・療育・教育」を一体的に提供し、3つの事業のシナジー効果を最大化させる「AIAI 三育圏」
- ・2023 年 3 月期は初の営業黒字化
- ・2024 年 3 月期も AIAI NURSERY の収益化が進展して大幅営業増益予想
- ・事業環境変化に対応して「AIAI グループ中期経営計画 2023～2025」を策定
- ・保育所等訪問支援を軸とする新たなビジネスモデル構築にも注目



注：20/12 期は開園準備費用計上変更組替後  
 出所：決算短信よりフィスコ作成

## ■ 会社概要

### 人口問題を解決するための事業を推進し、 保育・療育・教育を一体的に提供する「AIAI 三育圏」を展開

#### 1. 会社概要

同社は、経営理念に「夢に向かって成長しつづけよう」、グループミッションに「人口問題を解決する」と掲げ、特に未就学期の子どもに関する事業として東京・千葉・大阪を中心に「保育・療育・教育」を一体的に提供し、3つの事業のシナジー効果を最大化させる「AIAI 三育圏」を展開している。

本社所在地は東京都墨田区錦糸である。グループは 2023 年 3 月期末時点で、同社（持株会社）及び連結子会社 3 社（AIAI Child Care（株）、AIAI Life Care（株）、（株）CHaiLD）で構成されている。2023 年 3 月期末時点の資産合計は 11,742 百万円、純資産は 1,340 百万円、資本金は 176 百万円、自己資本比率は 11.3%、発行済株式数は 3,054,381 株（自己株式 894 株含む）である。

なお、経営の透明性向上や意思決定の迅速化を目的として、2021 年 3 月 26 日開催の第 6 回定時株主総会の決議により監査等委員会設置会社に移行した。また、2023 年 6 月 22 日開催の第 8 回定時株主総会の決議により、発行済株式総数の変更は行わず、資本金の額を減少してその他資本剰余金に振り替えた。貸借対照表上の純資産の部における勘定科目間の振替作業であり、純資産額への影響はない。

#### 2. 沿革

2007 年 1 月に保育・介護事業の運営を目的として東京都葛飾区新小岩に「株式会社 global bridge」を設立し、2007 年 3 月に保育事業を開始、2011 年 7 月に保育園運営管理システム Child Care System（CCS）を自社開発した。そして 2015 年 11 月に持株会社である「株式会社 global bridge HOLDINGS」を設立、2017 年 10 月に本社を現所在地に移転、2022 年 1 月に商号を現在の AIAI グループに変更（グループ子会社の商号も変更）した。

持株会社へ移行後の M&A・グループ再編では、2015 年 12 月に global bridge を連結子会社化（現 AIAI Child Care）、global bridge からテック部門を分離して（株）social solutions（現 CHaiLD）を設立、2018 年 7 月に（株）東京ライフケアを完全子会社化（その後 2020 年 4 月に global bridge が吸収合併）してサービス付高齢者向け住宅の運営を開始、2018 年 11 月に（株）YUAN を完全子会社化（現 AIAI Life Care）して住宅型有料老人ホームの運営を開始した。

株式関係では、2017 年 10 月に東京証券取引所（以下、東証）TOKYO PRO Market に上場、2019 年 12 月に東証マザーズに上場、2022 年 4 月の東証の市場再編に伴ってグロース市場に移行した。なお、2023 年 3 月には、前年に続き経済産業省と日本健康会議より「健康経営優良法人 2023」の認定を取得した。

会社概要

沿革

年月	項目
2007年 1月	保育・介護事業の運営を目的として、東京都葛飾区新小岩に株式会社 global bridge を設立
2007年 3月	千葉県千葉市花見川区にグループ初の保育施設「あい・あい保育園 幕張園」を開設
2011年 7月	保育園運営管理システム「Child Care System (チャイルドケアシステム)」の提供を開始
2011年10月	関西オフィスを開設 (大阪府大阪市中央区本町)
2015年11月	株式会社アニヴェルセル HOLDINGS からの会社分割 (新設分割) により株式会社 global bridge HOLDINGS を設立
2015年12月	株式会社 global bridge からテック事業を会社分割 (新設分割) し、株式会社 social solutions を設立
2017年10月	東京証券取引所 TOKYO PRO Market に上場
2017年10月	本社を現在地 (東京都墨田区錦糸) に移転
2018年 7月	株式会社東京ライフケアの株式を取得し完全子会社化、サービス付き高齢者向け住宅の運営開始
2018年11月	株式会社 YUAN の株式を取得し完全子会社化、住宅型有料老人ホームの運営開始
2018年11月	株式会社 YUAN の社名を、株式会社 global life care に変更
2019年 4月	会社分割により株式会社東京ライフケアの介護事業を株式会社 global life care に継承
2019年12月	東京証券取引所マザーズ市場に株式を上場
2020年 4月	株式会社東京ライフケアを株式会社 global bridge を存続会社として吸収合併、保育事業を統合する株式会社 global bridge の社名を株式会社 global child care に変更
2021年 4月	株式会社 social solutions の社名を株式会社 CHaiLD に変更
2022年 1月	グループのブランドイメージ統一のため、株式会社 global bridge HOLDINGS の社名を AIAI グループ株式会社に、株式会社 global child care の社名を AIAI Child Care 株式会社に、株式会社 global life care の社名を AIAI Life Care 株式会社に変更
2022年 4月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより東証マザーズ市場から東証グロース市場へ移行

出所：有価証券報告書よりフィスコ作成

## ■ 事業概要

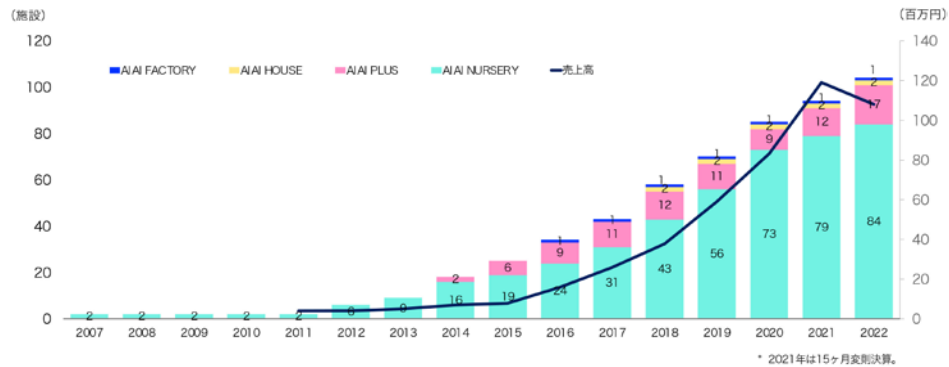
### 認可保育園 AIAI NURSERY と多機能型施設 AIAI PLUS が主力

#### 1. 事業概要

認可保育園 AIAI NURSERY（小規模保育施設 AIAI MINI を含む）、多機能型施設（児童発達支援及び保育所等訪問支援事業所）AIAI PLUS、サービス付高齢者向け住宅 AIAI MAISON、住宅型有料老人ホーム AIAI HOUSE、手作りおもちゃ工房（生活介護施設）AIAI FACTORY、及び保育園運営管理自社開発システム CCS 等の販売を展開している。事業エリアとしては千葉県・東京都・大阪市及び神奈川県に展開している。

2023 年 3 月期の売上高構成比は、チャイルドケア事業（AIAI NURSERY、AIAI PLUS）が 94.1%、ライフケア事業（AIAI MAISON、AIAI HOUSE、AIAI FACTORY）が 4.0%、テック事業が 1.9% だった。2023 年 3 月期末時点の施設数は AIAI NURSERY が 84 施設、AIAI PLUS が 17 施設、AIAI MAISON/AIAI HOUSE が 2 施設、AIAI FACTORY が 1 施設、合計が 104 施設となった。認可保育園経営数は業界 6 位規模である。施設数の増加に伴って売上高も増加基調である。

売上高と施設数の推移



出所：「2023 年 3 月期決算の概要」より掲載

なお、2023 年 3 月期まで事業区分をチャイルドケア事業、ライフケア事業、テック事業としていたが、2023 年 5 月に策定した「AIAI グループ中期経営計画」（2024 年 3 月期～2026 年 3 月期）を踏まえて、2024 年 3 月期より単一セグメントに変更する。



## 事業概要

## 2. 特色ある幼児教育プログラムが特徴、千葉県において圧倒的シェア

認可保育園 AIAI NURSERY は、児童福祉法に基づいた児童福祉施設で、面積や保育士等職員数など国が定めた設置基準を満たし、都道府県知事等に認可された施設である。国及び自治体が負担する施設型給付（園児や保育士に関する補助金、施設の賃借に関する補助金等）を受けて施設を運営する。小規模保育施設 AIAI MINI は、子ども・子育て支援新制度によって新設された保育施設で、19 名以下の定員かつ 0 歳から 2 歳までの子どもを対象として市町村の認可を受けた施設である。利用者からの保育料及び自治体からの地域型保育給付を受けて施設を運営する。

多機能型施設 AIAI PLUS は、発達に遅れのある未就学児（小学校入学前の児童）を対象として、日常生活における基本的な動作の指導や知識技能の付与、集団生活への適応訓練などの児童発達支援のほか、保育所等訪問支援を提供する施設である。1 回 90 分コースのプログラム（運動プログラム、学習プログラム）に週 2 回以上取り組むことで、適切な行動をとるための感覚情報を処理・組織化していく感覚統合を育成し、発達をサポートする。児童の発達支援において多様化するニーズに応えるため、発達に関する専門家が個別にサービスを提供している。保育園や幼稚園への出張プログラム提供も実施している。収益は、国民健康保険団体連合会（国保連）に障害福祉サービス費を請求するほか、自費負担サービス料を利用者に請求している。なお自治体補助により、利用者は実質的に原則無償で利用できる。

AIAI NURSERY 及び AIAI PLUS の特徴・強みとしては、特色のある独自の教育プログラムが高い評価を得ていること、千葉県・東京都・大阪市に集中したドミナント戦略によって効率よく展開していることなどがある。

AIAI NURSERY は、単に子どもを預かるだけの保育園ではなく、同社は大型遊具「AINI」及び雨天対応型園庭遊具「AINI BOX」（子どもの運動能力を伸ばす総合アスレチック）を設置しているほか、各施設に専用の学習室を設けて子どもの数・図形・文字などに関わる感覚を豊かにするプログラムを実施するなど、「子どもの才能が伸びる園」として就学前能動的学習の充実を図っている。AIAI PLUS においては、2021 年 4 月にサービス内容をリニューアルし、学習と運動を支援する「プログラムの専門家」として新たな発達支援プログラムをスタートさせた。なお雨天対応型園庭遊具「AINI BOX」は 2021 年 8 月に第 15 回キッズデザイン賞を受賞している。またコスト面では、自社システムによってペーパーレス化を推進し、保育士の事務作業削減を実現している。

この結果、特に千葉県においては圧倒的なシェアを誇り、千葉県内における施設用の土地・建物賃借情報を得やすくなり、新卒保育士の採用でも有利な状況となっている。

## 事業概要

ライフケア事業は、東京都でサービス付高齢者向け住宅 AIAI MAISON、大阪府で住宅型有料老人ホーム AIAI HOUSE を運営している。サービス付高齢者向け住宅 AIAI MAISON は、高齢者単身または高齢者夫婦（主に 65 歳以上）が安心して生活できる環境を整えた賃貸施設で、訪問介護等のサービスも提供している。住宅型有料老人ホーム AIAI HOUSE は、生活支援等のサービスが付いた高齢者（主に 65 歳以上）向けの居住施設である。介護が必要となった場合、入居者自身の選択によって、地域の訪問介護等の介護サービスを利用しながら、老人ホームでの生活を継続できる。生活介護施設の手作りおもちゃ工房 AIAI FACTORY は、生活介護を必要とする利用者に合わせた玩具の製作活動を提供する施設である。いずれも、現状は業態を作り込んでいる段階のため施設数に増減はない。

テック事業は、保育の個別最適化を目指し、自らの認可保育園運営の経験を活かして 2011 年 7 月に自社開発した保育園運営管理システム CCS など、保育施設の業務効率化を推進するためのソリューションを全国の保育事業者向けに提供している。利用者には「適切な保育」を提供し、保育士には「働きやすさ」を提供することが可能になる。なおテック事業については、新たな中期経営計画において、事業環境の変化を考慮して従来の成長分野という位置付けを見直し、リソースを AIAI NURSERY を中心とする「AIAI 三育圏」の構築へ再配置する方針としている。

## AIAI NURSERY は開設後 3 ～ 4 年目から収益化

### 3. 収益特性

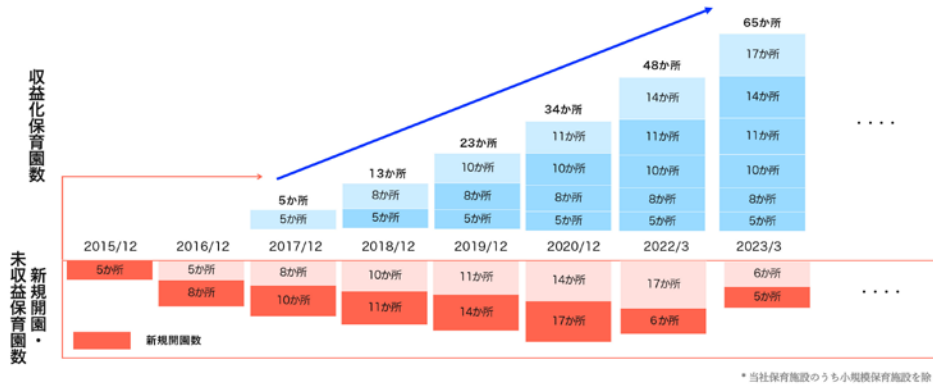
認可保育園の収益特性として、新規施設開設時は初期費用や採用費用などの立ち上げ費用が先行し、開設後数年間は高年齢クラス（3 歳～5 歳）が定員を満たさないため、低在籍数・低在籍率で赤字となる傾向にある。しかし開設後の年数経過とともに低年齢クラス（0 歳～2 歳）の児童が進級を重ねることにより、高年齢クラスの在籍数が増加し、在籍率も上昇して売上高、売上総利益も増加する。一般的には、開設後 3 ～ 4 年目以降になると在籍数増加・在籍率上昇によって収益化（黒字化）すると言われている。

なお四半期別に見ると、認可保育園は 4 月 1 日オープンが原則のため、オープン前後の 1-3 月期及び 4-6 月期に新規施設開設関連費用が増加して経費率が上昇するが、その後 7-9 月期及び 10-12 月期にかけては在籍数増加や在籍率上昇に伴って経費率が低下する。

同社はこれまで、収益基盤構築に向けて積極開設を推進してきたため戦略的に費用が先行して営業赤字が継続していたが、今後は新規開設ペースが落ち着いてくるとともに既存施設の収益化が進展し、収益化した既存施設の比率上昇により全体として安定的な利益を確保する見込みとしている。

事業概要

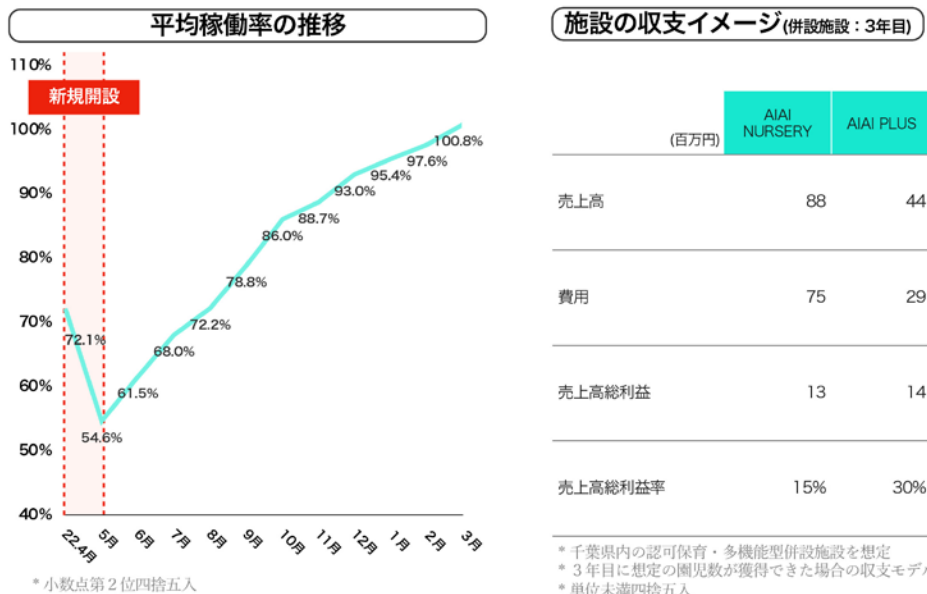
認可保育施設の開設後収益化モデル



出所：「事業計画及び成長可能性に関する事項」より掲載 \* 当社保育施設のうち小規模保育施設を除く

AIAI PLUSの収益特性としては、AIAI NURSERYと同じ建物で運営できるケースもあり、AIAI NURSERYに比べて投資額を抑えられるという特徴がある。AIAI NURSERYとの併設によるシナジー効果で、集客力や採用力の強化、戦略的な人員配置などにつながるメリットもある。さらに、認可保育園は4月1日オープンを原則とするが、多機能型施設はオープン時期を自由に設定できるという柔軟性もある。なお、全施設合計の平均稼働率は新規施設開設が一時的な低下要因となるが、施設開設後の受入児童数増加に伴って全体の平均稼働率も上昇基調となる。2023年3月期の全体の月別平均稼働率は、2022年4月～5月の新規5施設開設に伴って54.6%まで低下したが、6月以降は上昇基調となり、2023年3月には100.8%まで上昇している。

AIAI PLUSの平均稼働率の推移、施設の収支イメージ



出所：「事業計画及び成長可能性に関する事項」より掲載

## 事業概要

#### 4. リスク要因と対策・課題

保育・介護分野における一般的なリスク要因としては、利用者の減少、国や自治体による政策変更、関連法規制や許認可、施設における事故や感染症、保育士の確保難、競争激化などが挙げられる。

保育分野においては、女性の就業率上昇に伴う保育園利用ニーズの高まり、政府によるこども家庭庁創設（2023年4月発足）や「異次元の少子化対策」などの後押しがあるものの、一方では待機児童問題の解消が進み、今後は利用者減少によって競争激化や採算性低下も想定されている。このリスク要因に対して同社は、千葉県を中心とするドミナント戦略などを推進して競合優位性を維持している。さらに今後は、待機児童が減少する一方で障害児が増加傾向という市場環境の変化に対応して、AIAI PLUS における保育所等訪問支援サービスなど新たなビジネスモデル構築を検討する方針としている。

## ■ 業績動向

### 2023 年 3 月期は初の営業黒字

#### 1. 2023 年 3 月期連結業績の概要

2023 年 3 月期の連結業績は売上高が 10,822 百万円、営業利益が 80 百万円、経常利益が 413 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が 506 百万円の損失だった。セグメント別売上高はチャイルドケア事業が 10,219 百万円、ライフケア事業が 432 百万円、テック事業が 277 百万円だった。連結ベースで初めて営業利益が黒字化した。新規施設開設は AIAI NURSERY が 5 施設、AIAI PLUS が 5 施設で合計 10 施設だった。

## 業績動向

## 2023 年 3 月期連結業績の概要

(単位：百万円)

	20/12 期 (12 ヶ月)	22/3 期 (15 ヶ月)	23/3 期 (12 ヶ月)
売上高	8,318	11,975	10,822
売上原価	8,003	10,557	9,475
売上総利益	314	1,417	1,346
販管費	1,695	1,857	1,266
営業利益	-1,380	-440	80
営業外収益	1,794	1,110	491
営業外費用	136	209	158
経常利益	276	461	413
特別利益	4	0	41
特別損失	1	329	679
親会社株主に帰属する 当期純利益	150	116	-506
売上高の内訳			
チャイルドケア事業	7,832	11,322	10,219
ライフケア事業	336	487	432
テック事業	239	374	277
その他	14	0	6

注：20/12 期は開園準備費用計上変更組替後

22/3 期は 15 ヶ月決算、23/3 期は 12 ヶ月決算のため増減率非記載

出所：決算短信よりフィスコ作成

2022 年 3 月期が決算期変更に伴う経過措置として 15 ヶ月決算だったため比較はできないが、利益面では、AIAI NURSERY の開設後 3 ～ 4 年経過して収益化した施設数が増加したことに加えて、職員配置適正化など施設運営の効率化、AIAI PLUS の稼働率上昇、オフィス組織における販管費見直しの効果なども寄与して、全体として通期ベースで営業黒字化した。経常利益も大幅に増加した。なお、営業外収益では補助金収入は前期が 1,058 百万円、当期が 450 百万円だった。また、特別損失については、当期は減損損失 549 百万円を計上した。

四半期別の推移を見ると、売上面は新規施設開設と期中の充足率・稼働率上昇によって増収基調である。営業利益（新規施設開設時にあたる 2022 年 3 月期第 2 四半期及び 2023 年 3 月期第 1 四半期は開園関連費用が先行して赤字）は、2023 年 3 月期第 2 四半期以降、黒字基調となっている。

業績動向

四半期会計期間推移

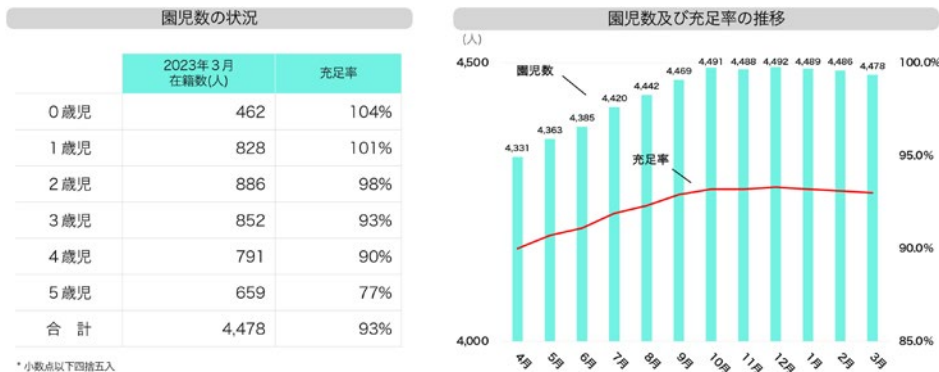


\* 単位未満切捨、前期は2021年1月～2022年3月の15ヶ月変動決算。  
出所：「2023年3月期決算の概要」より掲載

2. 事業別の状況

AIAI NURSERY の 2023 年 3 月時点の園児数は 4,478 名、全体の充足率は 93% となった。特に、公定価格単価が高い低年齢児の充足率は 0 歳児が 104%、1 歳児が 101% と高水準を維持している。また AIAI PLUS の稼働率は、新規開設に伴って 2022 年 4 月～5 月に一時的に低下したが、6 月以降は上昇基調となり、2023 年 3 月には 100.8% まで上昇した。

AIAI NURSERY 園児数及び充足率の推移



\* 小数点以下四捨五入  
出所：「2023年3月期決算の概要」より掲載

3. 財務の状況

財務面で見ると、2023年3月期末の資産合計は11,742百万円で前期比323百万円減少した。主に現金及び預金が増加した一方で、固定資産売却で有形固定資産が282百万円減少、無形固定資産（のれん、その他）が346百万円減少した。負債合計は10,401百万円で74百万円減少した。有利子負債（長短借入金）残高は109百万円減少して8,400百万円となった。純資産合計は1,340百万円で249百万円減少した。新株予約権行使に伴う払込等で資本金及び資本剰余金が261百万円増加したが、当期純損失の計上で利益剰余金が506百万円減少した。この結果、自己資本比率は1.6ポイント低下して11.3%となった。なお2023年3月に（株）横浜銀行とコミットメントライン契約（借入極度額500百万円）を締結した。

## 業績動向

自己資本比率が低水準、有利子負債比率が高水準の形だが、営業活動によるキャッシュ・フローは継続してプラスを維持している。中期的には利益積み上げと有利子負債削減によって財務基盤を強固にすることが望まれるが、現在は成長過程のため特に懸念材料にはならないと弊社では考えている。

## 財務諸表及びキャッシュ・フロー計算書（簡易版）

(単位：百万円)

	19/12 期	20/12 期	22/3 期	23/3 期	増減
資産合計	7,777	10,498	12,066	11,742	-323
(流動資産)	1,821	2,183	2,996	3,362	365
(固定資産)	5,945	8,308	9,067	8,380	-687
負債合計	6,815	9,066	10,476	10,401	-74
(流動負債)	1,663	2,192	2,015	2,012	-2
(固定負債)	5,152	6,873	8,460	8,389	-71
純資産合計	961	1,431	1,590	1,340	-249
(株主資本)	913	1,397	1,564	1,319	-244
(資本金)	176	329	45	176	130
自己資本比率	11.7%	13.2%	12.9%	11.3%	-1.6pt

	19/12 期	20/12 期	22/3 期	23/3 期
営業活動によるキャッシュ・フロー	287	385	595	873
投資活動によるキャッシュ・フロー	-1,905	-2,924	-1,711	-809
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,350	2,206	1,247	293
現金及び現金同等物の期末残高	1,159	817	948	1,306

注：20/12 期は開園準備費用計上変更組替後  
 出所：決算短信よりフィスコ作成

## ■ 今後の見通し

### 2024 年 3 月期も認可保育園の収益拡大で大幅営業増益予想

#### ● 2024 年 3 月期連結業績予想の概要

2024 年 3 月期の連結業績予想は、売上高が前期比 4.4% 増の 11,300 百万円、営業利益が同 147.8% 増の 200 百万円、経常利益が同 15.4% 減の 350 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が 200 百万円（2023 年 3 月期は 506 百万円の損失）としている。特に営業利益は AIAI NURSERY の収益拡大により大幅増益の予想としている。



今後の見通し

### 2024 年 3 月期連結業績予想の概要

(単位：百万円)

	23/3 期 実績	24/3 期 予想	増減率
売上高	10,822	11,300	4.4%
営業利益	80	200	147.8%
経常利益	413	350	-15.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	-506	200	-

出所：決算短信よりフィスコ作成

新規施設は AIAI NURSERY が 5 施設（うち 1 施設は移転して定員拡大）、AIAI PLUS が 3 施設、合計が 8 施設の計画としている。主力の AIAI NURSERY を中心に、新規開設や既存施設の園児数充足によって売上高及び利益規模の拡大を図るとともに、人員の最適配置などの取り組みも継続的に推進する方針だ。

## ■ 成長戦略

### 新中期経営計画「AIAI グループ中期経営計画 2023 ～ 2025」

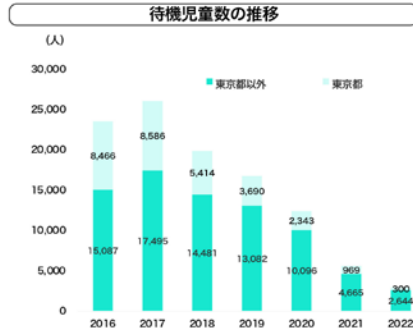
#### 1. 事業環境の変化

同社が展開する「AIAI 三育圏（AIAI NURSERY が提供する保育、AIAI PLUS が提供する療育、及び子会社 CHaiLD が提供する教育）」を取り巻く事業環境としては、待機児童問題が解消に向かい、業界全体で認可保育園の新設が減少傾向（東京 23 区の新規開設数は 2021 年 4 月の 88 施設から、2023 年 4 月は 27 施設まで減少）となる一方で、少子化の局面でも発達に障害を抱える子どもの数が増加の一途（障害を抱える子どもの数は 2003 年から 2020 年の間で 4.89 倍に増加）を辿り、これに伴って障害児施設の数が増加基調となっている。

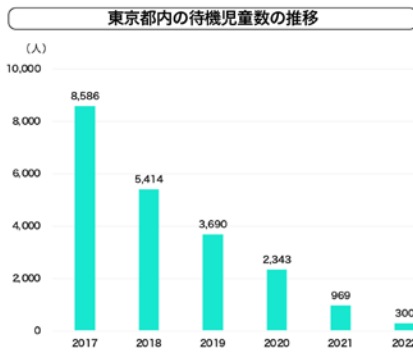


成長戦略

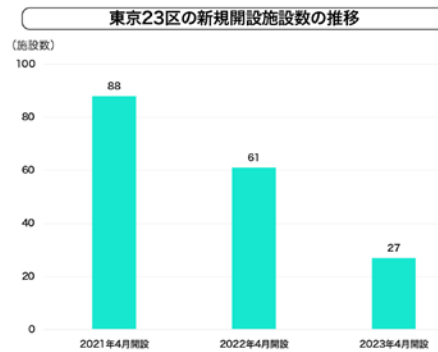
保育園を取り巻く環境



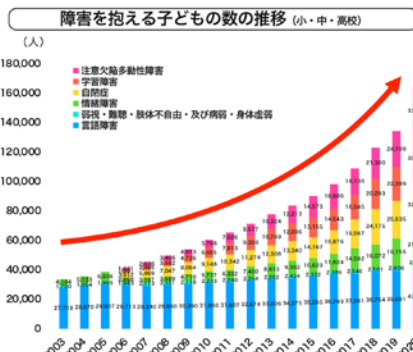
\*「保育所等関連状況取りまとめ」(厚生労働省)および「都内の保育サービスの状況について」(東京都福祉保健局)より作成



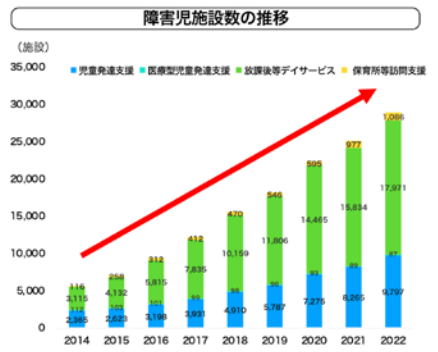
\*東京都「都内の保育サービスの状況について」(2022年7月27日)



※東京都23区各自治体ホームページにおける公表情報をもとに当社調べ



\*「特別教育支援資料(令和3年度)」(文部科学省 令和4年11月)より出典



\*厚生労働白書(令和4年版)より作成

出所:「事業計画及び成長可能性に関する事項」より掲載

2. 新中期経営計画「AIAI グループ中期経営計画 2023～2025」

待機児童問題が解消に向かう一方で発達に障害をかかえる子どもが増加傾向という事業環境の変化や、同社の AIAI NURSERY が利益化フェーズ入りして連結営業利益が 2023 年 3 月期に初めて黒字化したことなどを踏まえて、同社は従来の中期経営計画を見直し、2023 年 5 月に新たな「AIAI グループ中期経営計画 2023～2025」を策定した。テック事業の位置付け見直し、訪問支援サービスや幼児教育プログラムなどの新たなビジネスモデル構築なども織り込んだ。目標数値としては、2026 年 3 月期の売上高 120 億円～130 億円、営業利益 3 億円～5 億円、3 ヶ年累計投資予定額 6.8 億円などを掲げた。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項(ディスクレーマー)をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

成長戦略

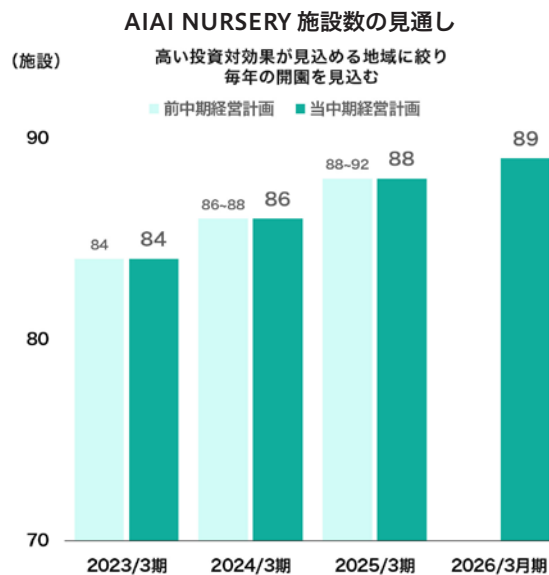
目標・指標等

	2024/3期	最終年度 2026/3期	
経営数値目標	売上高(連結)	113億円	120~130億円
	営業利益(連結)	200百万円	300~500百万円
	投資予定額(連結)	420百万円 <small>*AIAI NURSERY 400百万円 *AIAI PLUS 20百万円</small>	26/3期までの3か年累計 680百万円 <small>*AIAI NURSERY 660百万円 *AIAI PLUS 20百万円</small>
経済的価値指標	出店数	8施設 <small>*AIAI NURSERY施設 5施設 *AIAI PLUS施設 3施設</small>	24/3期~26/3期の3か年で 8施設 <small>*AIAI NURSERY施設 8施設 *AIAI PLUS施設 4施設</small>
	利用者数	4,500人程度	4,500人~5,000人程度
社会的価値指標	年間保育所等訪問支援実施数	3,000回程度	6,000回程度
	社内ライセンス取得者数累計	70人程度	26/3期までに 110人程度 <small>*移転開設を含む</small>

出所:「AIAI グループ中期経営計画 2023 ~ 2025」より掲載

基本戦略として、待機児童問題の解消に伴って業界全体で認可保育園の出店速度が鈍化している状況を踏まえ、今後市場が成熟期に突入することも念頭に置き、引き続きニーズ及び投資対効果の高い地域への出店を継続し、業界再編も見据えた取り組みを推進するほか、AIAI NURSERYを中心とした「AIAI 三育圏」によるグループシナジー効果の最大化を図る。

具体的戦略として、AIAI NURSERYについては、自前出店のほか M&A も視野に入れて、規模の拡大と利益の安定成長を推進する。2026年3月期末の施設数は89施設の計画としている。今後の金利環境の変化にも柔軟に対応するため、大型投資には自己資金の活用を優先する。AIAI PLUSについては、認可保育園に次ぐ成長の柱として育成を継続するが、サービス品質のさらなる向上と収益の最大化を図るべく作業療法士など有資格者の獲得・育成に注力するため、人材獲得・育成ペースに合わせた出店計画を新たに策定した。同時に、専門家が保育施設を訪問してプログラムを提供する保育所等訪問支援を軸に、新たなビジネスモデルを構築して収益拡大を図る。

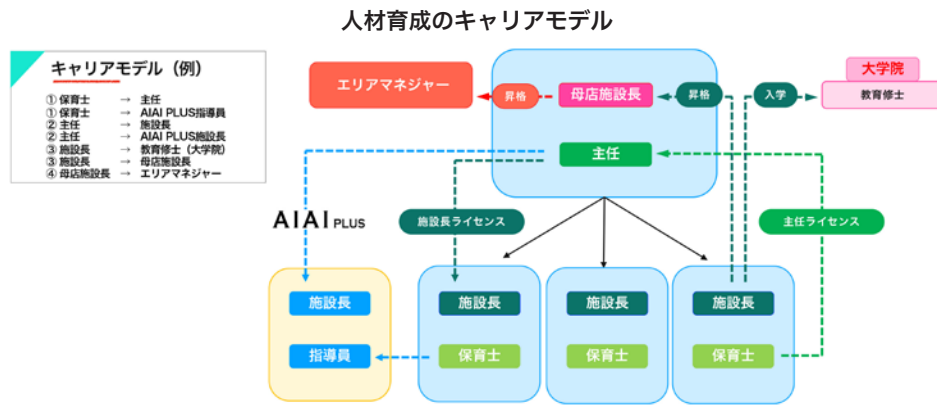


出所:「AIAI グループ中期経営計画 2023 ~ 2025」より掲載

成長戦略

テック事業については、事業環境の変化を踏まえて、これまでの成長分野という位置付けを見直し、同分野のリソースを「AIAI 三育圏」構築に向けて再配置する。なお子会社 CHaiLD の商材であった保育 ICT プロダクトについては、今後の保育市場の見通しを踏まえて 2023 年 3 月期にソフトウェア全額を減損損失として計上するとともに、サービスの見直しを実施済である。

コーポレート関連の取り組みとしては、財務・資本面において引き続き自己資本の充実を図り、財務面から事業の安定的成長を支えることを目指す。人的資本面においては、施設・オフィスのすべての社員が働きやすい環境整備や人材育成を促進する。AIAI NURSERY 及び AIAI PLUS においては、施設で働く職員のライフステージや働き方などの志向に応じたワークスタイルの選択肢を増やし、仕事と家庭の両立をサポートすることで、長く活躍できる職場環境を構築する。



出所：「AIAI グループ中期経営計画 2023～2025」より掲載

## 現在は成長過程のため投資や財務体質改善を優先

### 3. 株主還元策

株主に対する利益還元については、現在は成長過程にあり、当面は事業拡大に向けた積極的な設備投資や財務体質の強化を行うことが、株主に対する最大の利益還元につながると思っている。このため創業以来配当を実施しておらず、当面はこの方針を継続するとしている。将来的には、各事業年度の経営成績や財政状態を勘案しながら株主への利益還元を検討していく方針だが、現時点において配当実施の可能性及び実施時期等については未定としている。

### 4. ESG/SDGs への取り組み

ESG 経営・SDGs への取り組みとしては、グループビジョンである「人口問題を解決する」を根幹として、持続可能な社会の実現に向けた事業を推進している。財務的な価値の向上とともに、非財務価値の向上にも引き続き注力する方針だ。

成長戦略

ESG/SDGs の取り組み

創出価値・目指す姿	貢献するSDGsのゴール	取り組み例
<b>福祉・教育の充実</b> 質の高い保育の提供 - 療育体制の充実 - 小学校就学を見据えた教育の充実 等		・ AIAI NURSERYとAIAI PLUSとの連携 ・ 幼児教育プログラムの充実・展開 ・ AIAIレポートを通じた家庭との緊密な連携
<b>共創社会の実現</b> 地域の保育ニーズへの貢献 新たな価値の共創		・ 地域ニーズに対応した保育施設の展開 ・ 地域と連携した子育て支援（保育所等訪問支援） ・ 雇用促進 ・ 他社との協業の推進 ・ あらゆるステークホルダーとの連携の強化
<b>人的資本</b> 人の育成 女性活躍推進／多様な働き方の実現 働きやすい職場環境		・ 社内研修体制の充実 ・ ライセンス制度によるキャリア形成支援 ・ 社外プロジェクトへの参加 ・ ライフスタイルに応じた働き方の整備 ・ 女性リーダーの継続的育成 ・ 出産、育児、介護と両立して働きやすい環境整備 ・ 労働安全衛生・労働マネジメントの推進強化 ・ 健康経営の推進
<b>地球環境の保全</b> 環境負荷の低減		・ 環境負荷の低い施設 ・ ペーパーレスな業務体制 ・ 食品ロス・廃棄物削減
<b>ガバナンス</b> コーポレートガバナンスの強化		・ 社内監査制度（インスペクト）の充実 ・ 上場後3年を経過しJ-SOXへの対応のさらなる強化

出所：「AIAI グループ中期経営計画 2023～2025」より掲載

## 5. アナリストの注目点

同社は 2023 年 3 月期に初めて営業利益が黒字化した。AIAI NURSERY において開設から 3～4 年経過した既存施設の割合が上昇し、安定収益フェーズに移行した形だ。保育市場は今後競争激化が予想されるが、同社は質の高い教育プログラムや千葉県を中心とするドミナント戦略によって高い競争力を維持しながら、収益が安定的に拡大するだろうと弊社では考えている。加えて、発達に障害をかかえる子どもの増加への対応が今後の国の重要政策となる可能性があり、同社が視野に入れている保育所等訪問支援を軸とする新たなビジネスモデルの構築についても注目したいと弊社では考えている。

#### 重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

#### ■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp